



テーマは「宮城県の集落営農」－集落営農実態調査結果（令和7年2月1日現在）－

○ 「集落営農」とは、集落を単位として農業生産過程における一部又は全部についての共同化・統一化に関する合意の下に実施される営農をいう。

集落営農数、法人化率等の状況

宮城県拠点の
Webサイトは
こちら →



－ 宮城県の集落営農数は東北最多でも、法人化率が低くなっています －

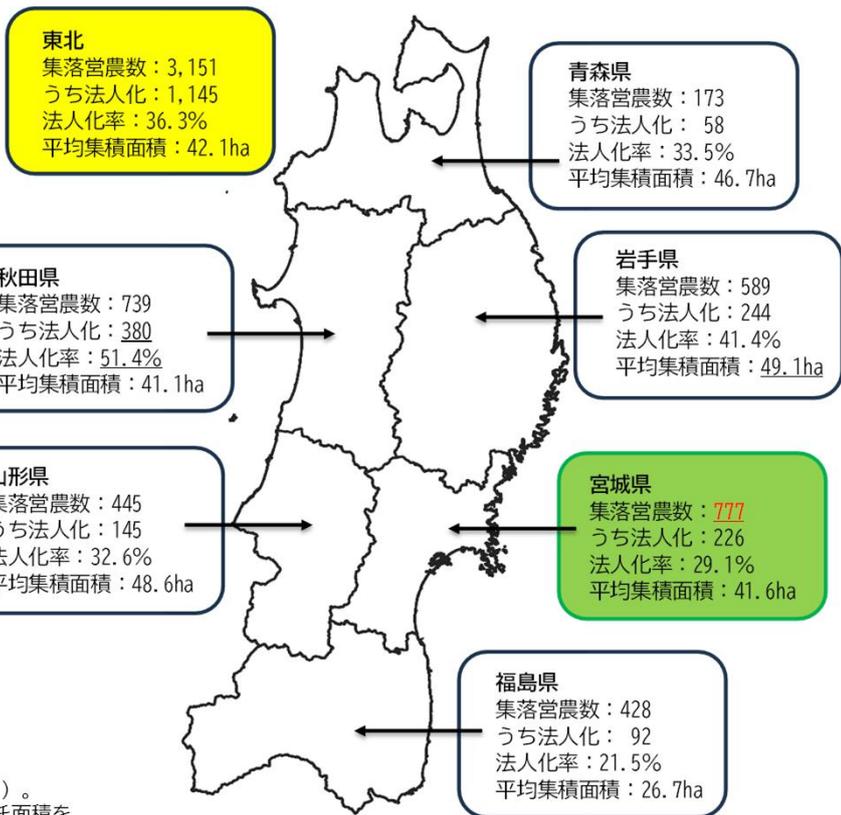
図1 集落営農数、法人化率等の状況（東北）

集落営農実態調査結果（令和7年2月1日現在）をみると、宮城県の集落営農数は777となり、東北で最も多くなっています。

集落営農のうち、法人化している集落営農数は、秋田県が380で最も多く、次いで岩手県244、宮城県226の順となっています。

集落営農の法人化率^{注1}は、秋田県が51.4%と最も高く、次いで岩手県41.4%、青森県33.5%の順となっていますが、宮城県は29.1%と低く法人化が進んでいないことがうかがえます。

また、集落営農による農地の平均集積面積^{注2}をみると、岩手県が49.1haと最も多く、次いで山形県48.6ha、青森県46.7haの順となっており、宮城県は41.6haで東北の平均集積面積とほぼ同等となっています（図1）。



資料：農林水産省統計部「集落営農実態調査」（以下同じ。）

注1：法人化率は、集落営農法人数/集落営農数の値（以下同じ。）。
注2：平均集積面積は、集落営農組織の経営耕地面積と農作業受託面積を合計した「現況集積面積」を集落営農数で除した、1集落営農当たりの現況集積面積である（以下同じ。）。

集落営農による農産物の生産・販売活動状況（宮城県）

－ 集落営農の約7割が水稻の生産・販売を行っています －

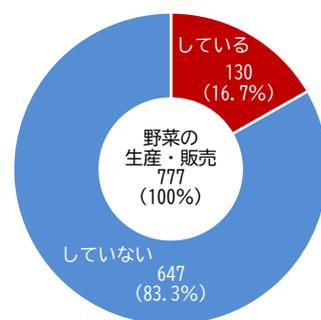
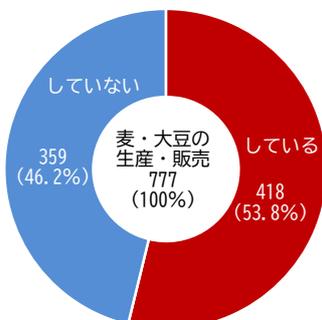
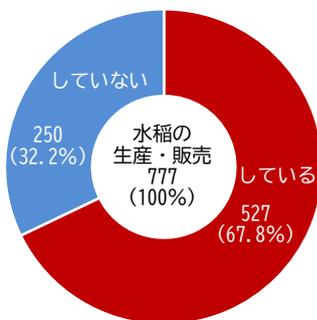
宮城県で農産物等の生産・販売活動に取り組んでいる集落営農数は、777のうち762（98.1%）となっています。

農産物を品目ごとにみると、水稻を生産・販売している集落営農は527（67.8%）、麦・大豆は418（53.8%）、野菜は130（16.7%）となっており、水稻、麦・大豆の生産・販売がメインに取り組まれています（図2～4）。

図2 水稻の生産・販売に取り組む集落営農数及び割合（宮城県）

図3 麦・大豆の生産・販売に取り組む集落営農数及び割合（宮城県）

図4 野菜の生産・販売に取り組む集落営農数及び割合（宮城県）



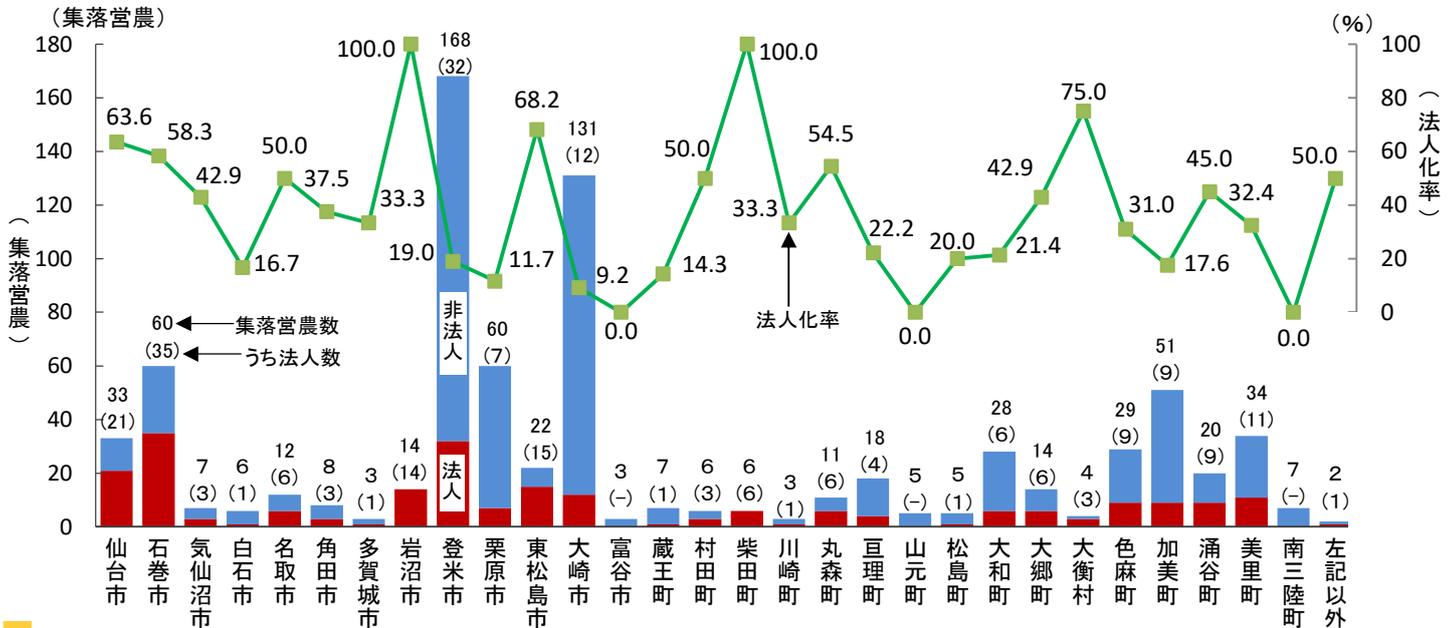
令和7年市町村別の組織形態別集落営農数及び法人化率（宮城県）

－ 市町村別の集落営農数は、県内で登米市が168と最も多くなっています －

令和7年市町村別集落営農数をみると、登米市が168と最も多く、次いで大崎市131、石巻市60、栗原市60、加美町51の順となっており、主に県北部の市町村で集落営農が多くなっています。

また、市町村別の法人化率をみると、集落営農数が最も多い登米市が19.0%、次に多い大崎市が9.2%、栗原市が11.7%となっており、集落営農数が多い市町村で法人化率が低いことがうかがえます（図5）。

図5 市町村別の組織形態別集落営農数及び法人化率（宮城県）



令和7年市町村別現況集積面積規模別の集落営農数（宮城県）

－ 100ha以上の経営規模の集落営農は、県全体で約7%となっています －

令和7年市町村別現況集積面積規模別集落営農数をみると、10～30haの経営規模の集落営農が最も多く、県全体で260（33.5%）となっています。また、100ha以上の経営規模の集落営農は、県全体で53（6.8%）、市町村別では石巻市及び栗原市が11と最も多く、次いで美里町6、仙台市5の順となっています（表、図6）。

図6 市町村別現況集積面積規模別集落営農数（宮城県）

表 現況集積面積規模別集落営農数（宮城県）

集積面積経営規模	集落営農数	割合 (%)
10ha未満	143	18.4
10～30	260	33.5
30～50	172	22.1
50～100	149	19.2
100ha以上	53	6.8
合計	777	100.0

資料：農林水産省統計部「集落営農実態調査」

